

早くも新緑の季節になりました。今年はギフチョウの発生も早く、石砂山では3月20日前から飛び始めたそうです。都心ではツマキチョウの季節となり、アゲハチョウの仲間も飛び始めています。エノキの新芽にはアカボシゴマダラの大きな幼虫が育っていて、季節の進みは早いようです。
(総務幹事：田中和夫)

【4月例会】

日時：平成28年4月19日（火）（第3火曜日） 午後6：30～8：30

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室

講演：大島良美氏「秩父ミュージックパークのウラギンヒョウモンの生態について」

早坂弘次氏「ジャコウアゲハの変異について」

【今後の例会予定】 午後6：30～8：30、

5月17日（火）（第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室）

講演：手代木求氏「タテハチョウ図鑑刊行まで」

6月21日（火）（第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室）

講演：岩野秀俊氏「スギタニルリシジミの分布拡大の要因を探る」

7月16（土）～17日（日）：

夏合宿 立川市八ヶ岳山荘

【連絡事項】

1. 「年次総会の件」

3月20日（日）午前9：30～10：30、武蔵野公会堂にて今年度の総会が行われました。

出席者40名、委任状65名、計105名、会員数の過半数79名を超え、総会は成立。

出席頂いた会員各位、委任状をお送り頂いた会員各位に、心から感謝申し上げます。

井上孝美氏による記念講演「ヒサマツミドリシジミの全貌」は興味深い内容でした。

2. 『第16回 高尾山：蕎麦と昆虫観察を楽しむ会』（夜の部）

日時：2016年5月14日（土）雨天の場合は中止

集合場所と時間：高尾山ケーブル下駅前 17：00（京王電鉄高尾山口駅より徒歩3分）

予定：自己紹介後、蕎麦屋で夕食 17：00～17：45 その後ケーブルで上駅へ。

18：10～18：30 仏舎利近辺にライトトラップ設置

18：30～21：00 点灯。観察会（蛾、甲虫類飛来予定）

21：00～21：30 ライトトラップ撤収→1号路を徒歩下山。高尾ケーブル下駅にて解散。希望者はこの後、JR高尾駅東口から徒歩2分の「かずき」にて懇親会を予定。

備考：1）子供さんから成人まで会員以外も参加を歓迎します。

2）下山（1号路）を含め、徒歩距離が長いので10歳以上に限らせて頂きます。小学生は保護者同伴の事。

3）申し込み締め切り 5月8日（日）。先着20名までにさせていただきます。

4）申し込み先：斎藤秀昭 (harunoc@gmail.com) メールのみ受付。

5）参加費：ライトトラップ用燃料費として一人100円徴収。

6）交通費、食事代は各自負担です。

7）参加の方は 懐中電灯必携です（下山路に街灯は少ししかありません）。

8）会では傷害保険をかけませんので、必用な方は各自でお願いします。

9）天候によっては夜間冷える場合もありますので、各自判断で防寒着をご用意下さい。

3. 「2016年度の会費」

3月より新年度となっていますので、会費を未納の方は、至急納入して下さい。
4月末までに入金がない場合、会員資格を停止させていただくこととなりますので
ご留意くださるようお願いいたします。年会費および振込先は以下のとおりです。

【会費】 一般会員：4,000円、 学生会員（高校生以下）：1,000円

【送金先】

<ゆうちょ銀行からの振替口座> 00180-0-67713

<他銀行からの振込口座>

金融機関：9900（ユウチョ）、 店番：019（ゼロイチキュウ）

種目：当座、 口座番号：0067713

<口座名> いずれの場合も「グループ多摩虫」 (会計幹事：藤塚弘)

4. 「会員専用ホームページ」

4月1日から会員専用ホームページのID/PWが変更されました。新規ID/PWは、新年
度会費を納入された方のみにお送りしています。会費を納入しているのに新規ID/PWが届
いていない方がいましたら、連絡ください。(IT幹事：patapata@millionlovers.com)

5. 『新着交換会誌、その他』

下記の交換会誌が送られてきています。4月例会で回覧します。

尚、本図書も貸し出し対象と致しますので、ご活用下さい。

1. 山陰むしの会 すかしば No.63
2. 同上 いずも虫だより No.116
3. 埼玉昆虫談話会 寄せ蛾記 160号
4. 同上 寄せ蛾記 161号
5. 相模の蝶を語る会 相模の記録蝶 No.30
6. 神奈川昆虫談話会 神奈川虫報 No.188
7. 同上 花蝶風月 163

6. 「新入会員の紹介」 :

岡本隆然（オカモト リュウゼン）：E-Mail: ryuzen.oka@gmail.com

住所：〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-18-17

小泉浩一（コイズミ コウイチ）：E-Mail: k-koizumi@r07.itscom.net

住所：〒211-0064 神奈川県川崎市中原区今井南町 31-21

五味昌洋（ゴミ マサヒロ）：E-Mail: sensuimaru4052@a.toshima.ne.jp

住所：〒171-0051 東京都豊島区长崎 6-33-2

杉山裕美子（スギヤマ ユミコ）：E-Mail: moonfrog.yuua@gmail.com

住所：〒301-0841 茨城県龍ヶ崎市白羽 4-4-3 サンライフ A203

吉成優香（ヨシナリ ユウカ）：E-Mail: luukachan_luukachan@icloud.com

住所：〒241-0801 神奈川県横浜市旭区若葉台 1-3-1415

7. 「訃報」

郷原雅敏氏：入院されていた病院で、3月8日夕方ご永眠されたとのお知らせを頂きました。
ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

2016.3.20

「年次総会」



総会会場の風景



報告・審議の状況

青少年奨励賞の表彰



皆勤賞の表彰



新入会員の紹介

記念講演「ヒサマツミドリ」 井上さん

【環境省訪問結果（種の保存法問題）について】朝日純一氏の了承のもとに転載します。

去る3月4日に、今般の種の保存法に基づく国内希少種に蝶3種（アサマジミ北海道亜種・ゴマジミ本州中部亜種・ウスイロヒョウモンモドキ）が追加指定された件について、環境省を杠隆史・朝日純一・矢後勝也の3名で訪問し、担当官と面談した結果を報告します。当日は2名の環境省の担当官が応対しましたが、添付のpdfはその際の間答の概要を示したものです。

今回の追加指定には、大きく2つの問題点を指摘できると思います。すなわち、

①今回の突然1週間という極めて短いパブコメ期間での指定をいきなり発表し、その締切の4日後には閣議決定、そして1か月後の3月15日には追加指定の施行というやり方は、行政手続きの公正さと透明性を求める行政手続法に違反しているのではないか、という手続面での問題、そして、

②種の保存法に基づく国内希少種への指定は、指定種の採集禁止はもちろん、指定後に採集された標本にとどまらず、指定前の標本も一切の譲渡し等（売買、贈与、貸借、預入）が原則禁止されるというのが環境省の解釈ですが、そのような解釈適用は国民の財産権（標本の所有権）をいきなり奪うに等しい国家権力の行使であり、財産権の尊重を定めた種の保存法第3条の趣旨に悖るだけでなく、国民の基本的人権を保障した憲法の諸規定（第13条、第14条、第23条、第29条、第31条、第39条）に違反するのではないか、という内容面での問題です。

環境省は、日本が加盟している生物多様性条約に基づいて絶滅危惧動植物を国内希少種に指定して規制する国際公約をしており（環境省は平成32年までに300種を追加指定するとしています）、蝶も24種を指定するとしています。今回の追加指定で合計6種が指定されましたが、後数年の間にさらに18種が国内希少種に指定される可能性があります。今後も今回のような安直な方法での指定が続けられれば、4年後には蝶に関しては日本の土着種の実に1割が採集はおろか標本の移動・流通も全面的に禁止されることになり、蝶の趣味の存立が足元から揺らぎかねない深刻な事態を招く懸念を禁じえません。

種の保存法に基づく国内希少種の指定により、環境省が（天然記念物の指定だけして何ら実効性ある対処をしてこなかった文科省と異なり）金も人も出して責任を持って希少種の保全を行うという点については高く評価できますが、桁違いの標本数が民間で所有・保存されている蝶など昆虫の標本に対する処遇については、その特性に応じた柔軟で現実的な対処が必要ではないかと思われるところです。

環境省は、指定種の標本は博物館等の公的機関への寄贈（種の保存法で認められている）で対処できるとしていますが、膨大な数の標本が持ち込まれた場合には、収蔵スペースと人的リソースが限られている公的機関でも収めきれなくなる事態となることは容易に想像されます。

今後、このような流れに何とか歯止めをかけ、少なくとも指定前の標本の移動・流通に対する規制を認める解釈（「指定前の昆虫標本には譲渡し等の禁止は適用されない」という解釈を打ち出させる）や措置（たとえば、環境大臣が過去に個体数が多く民間所蔵の標本数が膨大な数に上る蝶の標本の譲渡し等を規制から外す特例措置をとることは法文上認められている）を実現すべく、我々も声を上げて努力することが求められると思いますが、そのためには今回の追加指定の問題点を正しく認識・理解することが必要であると思われます。

この二つの問題は多岐にわたる論点を含んでおり、先日の環境省訪問時のやりとりも全ての論点を網羅し尽くしているわけではないと思われませんが、まずは現状認識の共有を図るため、添付のpdfをご覧ください、みなさんが今般の問題を考える一助になれば幸いです。

杠隆史（代）・朝日純一・矢後勝也（代）